

平成二六年度(二〇一四年度)

神戸大学大学院国際文化学研究科博士課程(前期課程)
言語情報コミュニケーション系領域 試験問題(日本語)

(注) 問題用紙六枚、解答用紙三枚、下書き用紙一枚

問題Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの解答は、それぞれ指定された解答用紙に記入すること。

問題Ⅰ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(引用文省略)

(藤原正彦 二〇〇五『国家の品格』新潮社一四三―一四七頁より引用)

問一 傍線部(一)について、筆者はなぜこのように述べているか。具体的に説明しなさい。

問二 傍線部(二)の「外国語にかまける」とはどういうことか。具体的に説明しなさい。

問三 問題文を百字以内に要約しなさい。

問題Ⅱ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(引用文省略)

(内田樹 二〇〇二『寝ながら学べる構造主義』文芸春秋社 六〇～六三頁より引用)

問一 従来の言語観と、ソシユールの言語観について、英語の *sheep* とフランス語の *mouton* の例を使って、両者の違いが明確になるように、三百字程度で説明しなさい。

問題Ⅲ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

（引用文省略）

白井恭弘二〇二三『ことばの力学―応用言語学の招待』岩波書店 一四六―一四七頁より引用

問一 傍線部（一）「母集団を正しくとらえていない」とはどういうことか。インターネットのアンケートを例に、百字程度で説明しなさい。

問二 傍線部（二）「相関関係は因果関係ではない」とはどういうことか。大卒者の年収が高卒者より高いことを例に、百字程度で説明しなさい。